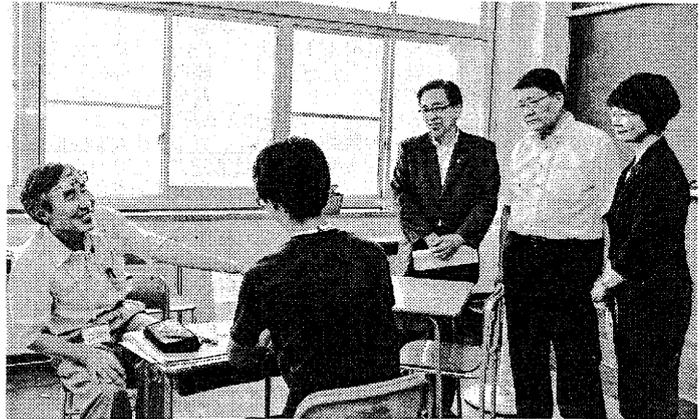


静岡県

高校で通級指導 充実へ

発達障がい生徒らを支援



静岡県立静岡中央高校の通信制課程は今年度、発達障がいのある生徒らが小グループで学ぶ通級指導を始めた。公明党の推進により、国が今年度から高校での通級指導を制度化。各地で取り組みが始まっている。公明党の蓮池章平県議と松下正行、幸田恵里子の両浜松市議が、同校西部キャンパス（湖西市）を訪れ、通級

県議

小グループで行っている通級指導を視察する（右から）幸田、松下の両市議、蓮池

指導を視察した。

同校の通信制課程は、卒業に必要な単位などを定めた教育課程の講座として「自立活動」を県内の東・中・西部にある3キャンパスで今年度から開始。このうち、西部キャンパスでは、生徒14人が受講し、面談を基に作成した個別指導計画に沿って、気持ちの伝え方、ストレスとの付き合い方などを学ぶ。この講座は6月から1月まで合計15回。一行が訪れた日は、全員で1週間の振り返りや簡単なゲームを行った後、生徒

1〜3人と教員1人の小グループに分かれ、各教室に移動。担当教員と生徒が個別に対話し、自己分析や困り事の対処法を話し合った。

通級指導を担当している教員の鈴木啓一さんは「生徒が笑顔を見せ始め、教室の雰囲気も変わってきた」と指摘。受講した女子生徒は「自分と向き合えたり、考えを相手に伝えたりできるようになってきた」と授業の効果を話していた。

通級指導は小中学校では多く実施されているが、高校では制度化されていない。このため、公明党の浜田昌良参院議員は2011年2月、内閣に対する質問主意書を提出し、高校での通級指導の制度化を検討する必要性を訴えていた。蓮池県議は「高校での通級指導を充実させたい。そのために、教員を確保できるように全力で取り組んでいく」と語っていた。